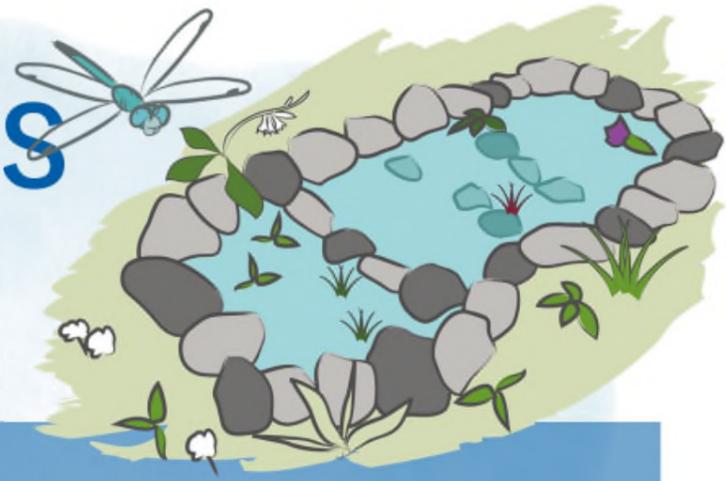


加賀電子ビオトープ NEWS

-第7号- 2025年6月の調査報告



* TOPIC *



オオスカシバが飛来!

植栽されているクチナシの木で、オオスカシバの成虫が見つかりました!大型の蛾の仲間なのですが、羽化直後に羽を激しく震わせて鱗粉(チョウの仲間の羽にある粉)をふり落とし、羽を透明にすることでハチに姿を似せて身を守っている、変わった生態の昆虫です!

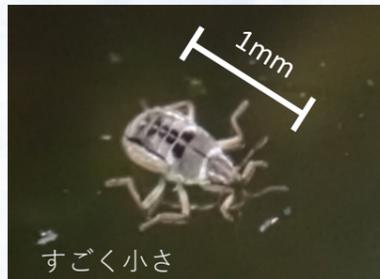
* 今回の調査で見つかった生きもの *



シオカラトンボ



セマダラコガネ



ホルバートケシカタビロアメンボ



ミゾコウジュ



トチカガミ

ビオトープ完成から2年が経過し、水中の生物は、顔なじみが増えてきました。生態系が安定してくると同時に、驚くような新しい種類は見つからなくなっている状況です。一方陸上では、アゲハチョウやオオスカシバなど、高い飛翔能力を持つ生物が、今回新たに記録されています。今後は、池のまわりの植物の種類や管理を工夫することで、さらに多くの生物を呼び込む段階かもしれません。

* COLUMN

30by30目標のロゴマーク



ビオトープが地球を救う?

いま、「生物の絶滅」が地球温暖化と並ぶ国際的な問題となっています。その解決策として、2030年までに陸と海それぞれの面積の30%を保護区に設定する、という国際目標が立てられました。これを30by30目標といいますが、日本では国立公園などが既存の保護区となっていますが、30%にはまだまだ足りません。そこで環境省では、企業などが持つ土地を保護区に登録してもらう制度(自然共生サイト認定)を開始しました。加賀電子ビオトープをこれに登録すれば、加賀電子の取り組みが、地球規模の問題を解決する一助になるかもしれません。



調査・監修
NPO birth 久保田潤一

これからも地域の自然を大切に、人と自然がずっと仲良く暮らしていける社会を作っていきましょう!

発信: 加賀電子(株)サステナビリティ推進